

# 日语分级阅读

高级

适用于N2N1级别学习者

赠  
音频  
日汉对照



## 起风了

(节选)



日语分级阅读研究组 编



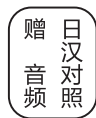
华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

温馨提示

可通过以下方式获取本书音频

1. 扫描右侧二维码，关注“华理日语”服务号，发送“资源”获取本书配套音频
2. 直接扫描书中的二维码，随扫随听配套音频





日语分级阅读 **高级**  
适用于N2N1级别学习者

# 起风了

(节选)

日语分级阅读研究组 编



 华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

· 上海 ·

## 图书在版编目(CIP)数据

日语分级阅读. 起风了(节选): 高级: 赠音频:  
日汉对照 / 日语分级阅读研究组编. — 上海: 华东理  
工大学出版社, 2022.11

ISBN 978-7-5628-6992-4

I. ①日… II. ①日… III. ①日语-阅读教学-自学  
参考资料 IV. ①H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2022)第188244号

.....  
策划编辑 / 王一佼

责任编辑 / 刘 溱

责任校对 / 金美玉

装帧设计 / 王 翔

插 画 / 施 纹

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址: 上海市梅陇路130号, 200237

电话: 021-64250306

网址: [www.ecustpress.cn](http://www.ecustpress.cn)

邮箱: [zongbianban@ecustpress.cn](mailto:zongbianban@ecustpress.cn)

印 刷 / 杭州日报报业集团盛元印务有限公司

开 本 / 890mm × 1240mm 1/32

印 张 / 1.75

字 数 / 48千字

版 次 / 2022年11月第1版

印 次 / 2022年11月第1次

定 价 / 15.00元  
.....

版权所有 侵权必究

# 目 录

かぜ <small>た</small> 風立ちぬ（抜粋） .....	002
起风了（节选） .....	003

かぜ た  
風立ちぬ(抜粋)

ほりたつ お  
堀辰雄



扫一扫, 听音频

わたしたち の きしや なん ど やま よ  
私達の乗った汽車が、何度となく山を攀じのぼった  
り、深い溪谷に沿って走ったり、又それから急に打ち  
ひら ぶ どうばたけ おお だい ち なが よこぎ  
展けた葡萄畑の多い台地を長いことかかって横切った  
りしたのち、や さんがく ちたい は  
漸々と山岳地帯へと果てしのないような、  
しつよう とうはん だ ころ そら いっそうひく  
執拗な登攀をつづけ出した頃には、空は一層低くなり、  
いままではただいちめん と み え た ま ぐろ  
な雲が、いつの間にか離れ離れになって動き出し、そ  
れらが わたしたち め うえ お  
私達の目の上にまで圧しかぶさるようであつ  
た。くう き そこび うわぎ えり た  
た。空気もなんだか底冷えがしだした。上衣の襟を立て  
わたし かたかけ からだ う め  
た私は、肩掛にすっかり体を埋めるようにして目をつ  
ぶっているせつこ つか い こうふん  
ぶっている節子の、疲れたと云うよりも、すこし興奮し  
ているらしいかお ふあん みまも かのじよ  
ているらしい顔を不安そうに見守っていた。彼女はとき

生词短语

離れ離れ(はなればなれ): ④[名・ナ形] 离散,

分离

## 起风了(节选)

火车载着我们，不知多少次翻过山岭，沿着幽深的溪谷行驶。不久，大片的葡萄田忽地映入眼帘。火车开了许久才穿过这满是葡萄田的台地，然后终于向着山岳地带，开始了无穷无尽的、执拗的攀登。此时，天空显得越发低垂，之前遮天蔽日的乌云在不知不觉间分散开来，四处游走，仿佛要直接盖住我们的双眼。空气也冷得直逼骨髓。我竖起上衣领子，有些不安地注视着节子。她把自己裹在披风里闭目养神，那神情与其说是疲倦，倒不如说透着些许兴奋。有时她会迷迷糊糊地睁开眼睛看我。起初我们还会相视一笑，但到后来便只是不安地对望一眼，便立刻移开视线。她也会顺势再次合上眼睑。

どきぼんやりと目をひらいて私の方を見た。はじめの  
 ちは二人はその度毎に目と目で微笑みあったが、しま  
 いにはただ不安そうに互を見合ったきり、すぐ二人と  
 も目をそらせた。そうして彼女はまた目を閉じた。

「なんだか冷えてきたね。雪でも降るのかな」

「こんな四月になっても雪なんか降るの？」

「うん、この辺は降らないともかぎらないのだ」

まだ三時頃だというのに、もうすっかり薄暗くなった  
 窓の外へ目を注いだ。ところどころに真っ黒な樅をまじ  
 えながら、葉のない落葉松が無数に並び出しているの  
 に、すでに私達は八ヶ岳の裾を通っていることに気が  
 ついたが、まのあたり見える筈の山らしいものは影も  
 形も見えなかった。……

### 生词短语

ぼんやり：③[副] 模糊，不清楚；无所事事；呆  
 呆地

### 重点语法

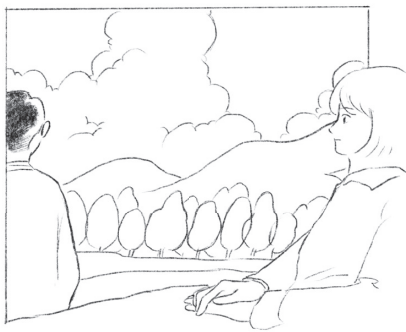
② ～とは限らない/とも限らない：“不  
 见得……”“未必……”

“感觉降温了，是不是要下雪啊？”

“这都四月了，还会下雪吗？”

“嗯，这一带说不定会下呢。”

我凝视着才下午三点就已经暗下来的车窗外。在没有叶片的无数棵落叶松之间，间或夹杂着黑漆漆的冷杉。我这才意识到火车正在驶过八岳山的山脚，然而本应出现在眼前的山峦却毫无踪影……



汽車は、いかにも山麓らしい、物置小屋と大してかわ  
 らない小さな駅に停車した。駅には、高原療養所の印  
 のついた法被を着た、年とった、小使が一人、私達を  
 迎えに来ていた。

駅の前に待たせてあった、古い、小さな自動車のとこ  
 ろまで、私は節子を腕で支えるようにして行った。私  
 の腕の中で、彼女がすこしよろめくようになったのを感じ  
 したが、私はそれには気づかないようなふりをした。

「疲れたらうね？」

「そんなでもないわ」

私達と一緒に下りた数人の土地の者らしい人々が、そ  
 ういう私達のまわりで何やら囁き合っていたようだっ  
 たが、私達が自動車に乗り込んでいるうちに、いつの  
 まにかその人々は他の村人たちに混って見分けにくくな  
 りながら、村のなかに消えていた。

私達の自動車が、みすぼらしい小家の一列に続いて

### 生词短语

見窄らしい(みすぼらしい)：⑤⑩[イ形]寒碇，衣衫褴褛

火车停在了和储藏室差不多大的小小车站，一看就是山麓小站。有个上了年纪的杂工，穿着印有高原疗养院标志的号衣，来到车站迎接我们。

我用手臂挽着节子，往等在车站前的老旧小汽车走去。我虽然感到臂弯中的节子走路有些摇晃，却装作没有察觉。

“累坏了吧？”

“没有那么累啦。”

一同下车的几个乘客看着像是当地人，一直在我们周围小声嘀咕着什么。但在我们上车的时候，那些人不知不觉便融入其他村民中，变得难以辨别，渐渐消失在村里。

我们的车穿过一排排简陋的村舍。眼前凹凸不平的辽

いる村を通り抜けた後、それが見えない八ヶ岳の尾根ま  
 でそのまま果てしなく広がっているかと思える凸凹の  
 多い傾斜地へさしかかったと思うと、背後に雑木林を  
 背負いながら、赤い屋根をした、いくつもの側翼のある、  
 大きな建物が、行く手に見え出した。「あれだな」と、  
 私は車台の傾きを身体に感じ出しながら、つぶやいた。  
 節子はちょっと顔を上げ、いくぶん心配そうな目つき  
 で、それをぼんやりと見ただけだった。

サナトリウムに着くと、私達は、その一番奥の方の、  
 裏がすぐ雑木林になっている、病棟の二階の第一号室  
 に入れられた。簡単な診察後、節子はすぐベッドに寝て  
 いるように命じられた。リノリウムで床を張った病室に  
 は、すべて真っ白に塗られたベッドと卓と椅子と、――  
 それからその他には、いましがた小使が届けてくれた  
 ばかりの数箇のトランクがあるきりだった。二人きり

### 生词短语

今し方(いましがた): ①③[名]方才, 刚才

阔坡地好像会一直延伸到遥不可见的八岳山山脊。我们刚来到坡地前，前方迎面出现一栋巨大建筑，它背靠杂树林，有着红色的屋顶和几栋副楼。“就是那里啊。”我感受着车体的倾斜，喃喃自语。

节子只是微微抬起头，带着几分担忧看了它一眼。

抵达疗养院后，我们被安排在最里侧的住院楼的二楼一号房间，背后紧挨着外面的杂树林。经过简单的诊察，节子被命令立即卧床休息。在铺满油毡地板的病房里，除了洁白的床铺和桌椅，只剩下杂工刚才送来的几个行李箱。房间里只剩下我们两个人时，我一时静不下心来，或是漫不经心地上下打量空荡荡的房间，或是来来回回走到窗前观察天色，总之不愿走进旁边狭小的陪护人房间。窗外，风

になると、<sup>わたし</sup>私はしばらく<sup>おちつ</sup>落ち着かず、<sup>つきそいにん</sup>附添人のために  
<sup>あ</sup>宛てられた<sup>せまくる</sup>狭苦しい<sup>そくしつ</sup>側室にはいろいろともしないで、そ  
 んな<sup>だ</sup>むき出しな<sup>かん</sup>感じの<sup>しつない</sup>する室内を<sup>みまわ</sup>ぼんやりと見廻した  
 り、又、<sup>また</sup>何<sup>なん</sup>度も<sup>まど</sup>窓に<sup>ちか</sup>近づいては、<sup>そらもよう</sup>空模様ばかり<sup>き</sup>気にして  
 いた。<sup>かぜ</sup>風が<sup>ま</sup>真っ<sup>くろ</sup>黒な<sup>くも</sup>雲を<sup>おも</sup>重たそうに<sup>ひ</sup>引きずっていた。そ  
 して<sup>うら</sup>ときおり<sup>ぞうきばやし</sup>裏の<sup>するど</sup>雑木<sup>おと</sup>林から<sup>も</sup>鋭い音を<sup>も</sup>腕いだりした。  
<sup>わたし</sup>私は<sup>いちどさむ</sup>一度寒<sup>かっこう</sup>そうな<sup>で</sup>恰好をして<sup>い</sup>バルコンに出<sup>い</sup>て行<sup>い</sup>った。  
 バルコンは<sup>な</sup>何<sup>しきり</sup>んの<sup>むこ</sup>仕切もなしに<sup>びょうしつ</sup>ずっと向<sup>むこ</sup>うの<sup>びょうしつ</sup>病室まで  
<sup>つづ</sup>続<sup>うえ</sup>いていた。その上には<sup>まった</sup>全<sup>ひと</sup>く人<sup>た</sup>けが<sup>た</sup>絶<sup>た</sup>えていたので、  
<sup>わたし</sup>私は<sup>かま</sup>構<sup>ある</sup>わずに<sup>だ</sup>歩<sup>びょうしつ</sup>き出しながら、<sup>ひと</sup>病室を<sup>ひと</sup>一つ一つ<sup>のぞ</sup>覗いて  
<sup>い</sup>行<sup>み</sup>って見ると、<sup>ちやうど</sup>丁度<sup>よんぱんめ</sup>四番目の<sup>びょうしつ</sup>病室のなかに、<sup>ひとり</sup>一人の  
<sup>かんじゃ</sup>患者の<sup>ね</sup>寝<sup>はんびら</sup>ているのが<sup>まど</sup>半開きになった<sup>み</sup>窓から<sup>み</sup>見えたので、  
<sup>わたし</sup>私は<sup>ひ</sup>いそいで<sup>かえ</sup>そのまま引<sup>き</sup>返して<sup>き</sup>来た。

やっと<sup>つ</sup>ランプが<sup>つ</sup>点いた。それから<sup>わたしたち</sup>私達は<sup>かんごふ</sup>看護婦の<sup>はこ</sup>運<sup>はこ</sup>ん  
<sup>き</sup>で<sup>しょくじ</sup>来てくれた<sup>むか</sup>食事に<sup>あ</sup>向<sup>あ</sup>い合<sup>あ</sup>った。それは<sup>わたしたち</sup>私達が<sup>ふたり</sup>二人<sup>き</sup>き

### 生词短语

時折(ときおり): ①[副]有时, 偶尔

艰难地拖着厚重的乌云，从后面的杂树林里时不时传来尖锐的声响。我穿着薄衣走到阳台。阳台上没有任何隔断，径直通向另一侧的病房。看到上面没人，我便放心大胆地沿着阳台，逐一观察起其他病房。走到四号房时，由于透过半开的窗户瞥见一个正在睡觉的病人，我就赶紧顺着原路返回了。

终于，灯亮了。我们对着护士送来的饭菜，面对面坐了下来。作为我们俩一起吃的第一顿饭，这菜色略显寒酸。用

りで最初に共にする食事にしては、すこし佐びしかつた。食事中、外がもう真っ暗なので何も気がつかずに、唯何だかあたりが急に静かになったとおもっていたら、いつのまにか雪になり出したらしかった。

私は立ち上って、半開きにしてあった窓をもう少し細目にしながら、その硝子に顔をくっつけて、それが私の息で曇りだしたほど、じっと雪のふるのを見つめていた。それからやっと其処を離れながら、節子の方を振り向いて、「ねえ、お前、何だってこんな……」と言いだしかけた。

彼女はベッドに寝たまま、私の顔を訴えるように見上げて、それを私に言わせまいとするように、口へ指をあてた。

\* \* \*

やつがたけおお たいしゃいろ すその ようや  
八ヶ岳の大きなのびのびとした代赭色の裾野が漸くそ

### 重点语法

② ～にしては：“就……而言”，表示评价的标准

餐时，天已经黑得伸手不见五指，只感到四周好像突然安静了下来，这才发现窗外不知何时飘起了雪花。

我起身去关半开的窗户，只留下一条缝，将脸贴在玻璃上，久久凝视着外面的飞雪，久到玻璃因我的呼气变得模糊不清。终于，我离开窗户，回过头对节子说道：“喂，你为什么到这种……”

她躺在床上，抬头望向我的脸，仿若有什么要倾诉，然后把手指抵上嘴唇，无言地止住了我的话头。

\* \* \*

在八岳山山脚绵延不断的黄褐色原野坡度渐缓处，疗